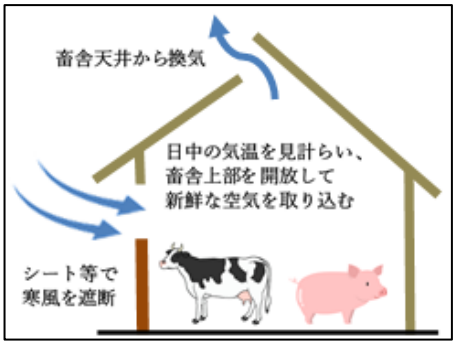
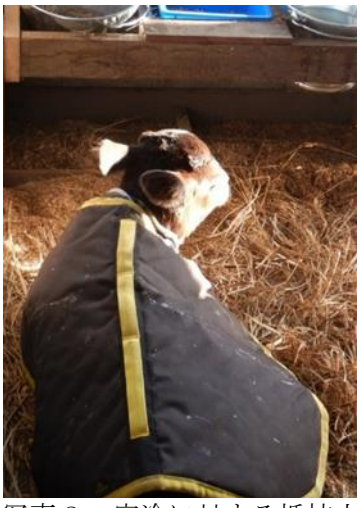
５　畜　　産

項　　目	作　　業　　内　　容
（１）厳寒期の畜舎環境対策	（今月の作業のポイント） 〇厳寒期の畜舎環境対策 〇飼養管理や生産現場における事故防止 四国地方の向こう１ヵ月の天候の見通しによると、平年並みか低い見込みである。朝晩の冷え込みは厳しいため畜舎内の保温を優先しがちであるが、換気不足になるとふん尿から発生するアンモニアガスが充満し、呼吸器疾患を発症する要因となる。家畜の生産性を低下させないために、換気は気温が上昇した昼間に行い、ゆっくりと畜舎内の空気を循環させる。 ア　適切な換気と寒風の遮断 換気の際、家畜に直接寒風があたると下痢や風邪を誘発することがある。このため、畜舎側面には家畜が寒風にさらされない高さまでシートやコンパネ等の風よけを設置するなど、寒風を遮断できる準備をしておく。（図１）この風よけは適切に機能しているか常に確認し、破損等があれば直ちに修繕しておく。  図１　寒風を遮断する換気模式図 イ　敷料の状態確認とこまめな交換 おがくず等の敷料がふん尿で汚れたままでは、家畜の体温を奪うと同時にアンモニアガスが発生し、衛生環境が悪化する。このため、敷料の交換は通常よりも早めに行い、乾燥し清潔な状態を保つようにする。（写真１） 写真１　乾燥したオガクズを厚めに敷いた牛舎 また、おがくずを厚く敷くことで、保温効果が期待できる。更に、おがくずの上に稲わらを重ねて、ふかふかの状態にすることが望ましい。

項　　目	作　　業　　内　　容
	ウ　保温器具の活用 　換気を行うと一時的に畜舎内温度が低下するため、寒さに弱い幼畜等には、家畜用コルツヒーターや子牛用防寒ジャケット（写真２）を活用する等、保温環境を整えておく。 エ　給水、飼料対策 　厳寒期には、給水設備が凍結する恐れがあるので、凍結防止対策を講じるとともに、常に新鮮な水が飲めるよう給水器を清掃しておく。また、飼料がカビ等で変敗することがないよう、紙袋の飼料は結露する場所を避けて保管する。  写真２　寒冷に対する抵抗力が弱い子牛のための防寒ジャケット
（２）飼養管理や生産現場における事故防止	中央労働災害防止協会の労働災害分析データによると、畜産業の労働災害発生件数は、令和２年以降約 1,200 件を超える件数で推移しており、年々増加傾向にある。また、事故の型別発生状況では、「激突され」「墜落・転倒」「はさまれ・巻き込まれ」「転倒」「動作の反動・無理な動作」による事故が多いのが実態である。 　畜産業では、作業用機械による事故に加え、家畜が原因となる事故も発生している。乳牛の搾乳時に蹴られたり、踏まれたり、人との接触機会が少ない肥育牛に角で突かれたりといった事故が発生している。これらを防ぐためにも、畜舎の整理整頓、照明等で明るい作業環境を整えるとともに、できるだけ複数名で作業を行う等の対策を実施する。また、作業者個人では、ヘルメットや保護帽、作業に応じて安全長靴（重量物落下・踏抜き防止対応）を着用するとともに、切創防止用として保護手袋も必ず着用する。 　家畜が動く範囲は飼養環境や畜舎構造によって変わるので、それぞれの環境で危険な状況を洗い出し作業者全体で共有することが重要である。

（作成　畜産研究センター）